

意見書

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 様

2006年1月25日

吉田 博昭

武庫川流域委員会も回を重ね、具体的な対策検討段階に入りホームページから委員の皆様方が真剣に熱意をもってご尽力戴いていることが感じられ敬意を払いたと思います。

私の知っているのは三田から河口部までの狭い範囲内ですが、上武庫橋架け替え、リバーサイト住宅浸水対策、宝塚付近の河川沿いのマンション建設が進められているなど後戻りが難しい既成事実が積み上げられていくのに危機感を覚え、流域住民の理解と協力が得られる結論の出る事を願っています。「武庫川総合治水・流域対策の骨子案」について思いついた事をまとめました。

- 1 自然は気ままなもので基本高水を幾ら大きくしても、それを越える事も希ではないと思います。設備だけに頼るのではなく、防災マップの配布や、警戒や非難の情報提供、避難誘導の仕組み作りや、何時でも機能するよう地元組織を巻き込んだ訓練なども大切なことで、中川委員の『危機管理』と『流域対策骨子の「365日の治水対策」』は基本的なソフト対策だと思います。
- 2 公園、学校を一時貯留施設として対策案にあがっていますが、誰もが良く知っている、これらの施設は、地震、水害、大規模火災などの災害時の避難場所として使われるだけでなく、阪神淡路大震災の際にも仮設住宅地や救難基地として使われ、その大切さは今後も変わることは無く避難、救援基地としての機能について考慮する必要があると思います。
- 3 治水施設は出来るだけ自然に手を加えることのない小規模なものを幾重にも作るというような考え方は出来ないでしょうか。例えば道路、鉄道などを第二堤防や輪中堤防として利用することは考えられないでしょうか。洪水や地震が発生した場合に大切なのが避難、救援、復旧のための道路です。まちづくりの一環として考えていただければと思います。
- 4 防災を基本に対策案の検討が進められていますが、まちづくりの一環として自然や景観を保護すべきところも一考していただければと願っています。人口減少が確実になり、淀川流域の利水ダム建設中止に象徴されるように現状以上の水需要は起こらないと考えられ、水を常時貯留しておくような形式のダムを新たに作る必要はないと考えます。民家も少なく土砂の堆積もない景観が良く保存されている三田から生瀬間の流域は手付かずの流域として残して欲しい。
- 5 人口減少時代を迎え、土地余りの時代が来ると思われ、災害の予測される地域の開発を規制したり、危険区域に住んでおられる方々を安全な地域に誘導するような施策も考えられるのではないのでしょうか。
- 6 堤防は切れたら被害が大きくなるばかりか、復旧を遅らせることになります。中川委員の言うとおり、降雨変動は予想を超えるもので、例え洪水が堤防を越えたとしても決壊しないような強度を持たせることも大切なことと考えます。
- 7 総合治水を諮問されていますが、東南海地震の発生も心配されており、先の阪神淡路大震災で百合の台の大規模な地滑りの事例もあり、武庫川兩岸の地滑り対策も考慮できればと思います。

以上